



SQL Serverリソースのリストア

SnapCenter software

NetApp
November 06, 2025

This PDF was generated from https://docs.netapp.com/ja-jp/snapcenter-61/protect-scsql/reference_restore_sql_server_resources.html on November 06, 2025. Always check docs.netapp.com for the latest.

目次

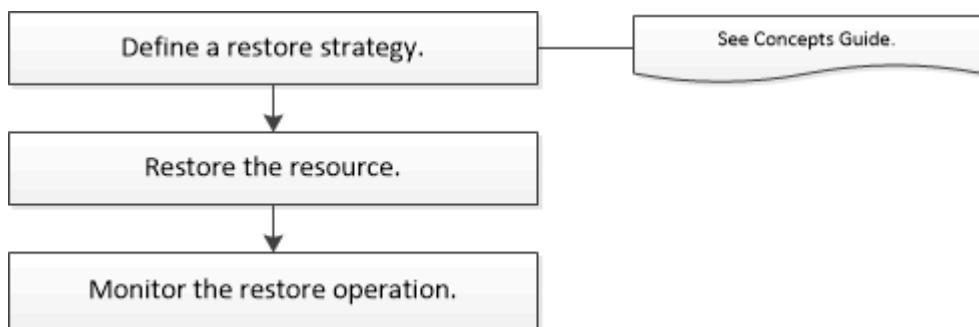
SQL Serverリソースのリストア	1
リストアのワークフロー	1
データベースをリストアする際の要件	1
SQL Serverデータベースのバックライトのリストア	2
セカンダリストレージからSQL Serverデータベースのリストア	9
PowerShellコマンドレットを使用したリソースのリストア	10
可用性グループ データベースの再シード	13
SQLリソースのリストア処理の監視	14
SQLリソースのリストア処理のキャンセル	15

SQL Serverリソースのリストア

リストアのワークフロー

SnapCenterを使用して1つ以上のバックアップからアクティブ ファイルシステムにデータをリストアし、データベースをリカバリすることで、SQL Serverデータベースをリストアできます。可用性グループ内のデータベースをリストアし、リストアしたデータベースを可用性グループに追加することもできます。SQL Serverデータベースをリストアする前に、いくつかの準備作業を実行する必要があります。

次のワークフローは、データベース リストア処理の実行順序を示しています。



PowerShellコマンドレットを手動またはスクリプトで使用して、バックアップ、リストア、リカバリ、検証、クローニングの処理を実行することもできます。PowerShellコマンドレットの詳細については、SnapCenterコマンドレットのヘルプを使用するか、["SnapCenterソフトウェア コマンドレット リファレンス ガイド"](#)

詳細情報

["セカンダリ ストレージからSQL Serverデータベースのリストア"](#)

["PowerShellコマンドレットを使用したリソースのリストアおよびリカバリ"](#)

["SnapCenter, Restore operation might fail on Windows 2008 R2"](#)

データベースをリストアする際の要件

SnapCenter Plug-in for Microsoft SQL ServerのバックアップからSQL Serverデータベースをリストアする前に、以下の要件を満たしていることを確認する必要があります。

- ターゲットSQL Serverインスタンスがオンラインで、稼働している必要があります。

これは、ユーザ データベースのリストア処理とシステム データベースのリストア処理の両方に当てはまります。

- リモート管理サーバまたはリモート検証サーバ上でスケジュールされているジョブも含め、リストアするSQL Serverデータに対して実行予定のSnapCenter処理をすべて無効にしておく必要があります。
- システム データベースが機能していない場合は、最初にSQL Serverユーティリティを使用してシステム データベースを再構築しておく必要があります。

- ・ プラグインをインストールするときに、可用性グループ（AG）のバックアップをリストアする権限を他のロールに付与します。

次のいずれかの条件に該当する場合、AGのリストアが失敗します。

- RBACユーザがプラグインをインストールし、管理者がAGバックアップをリストアしようとした場合
 - 管理者がプラグインをインストールし、RBACユーザがAGバックアップをリストアしようとした場合
- ・ カスタム ログ ディレクトリのバックアップを代替ホストにリストアする場合は、SnapCenter Serverとプラグイン ホストに同じバージョンのSnapCenterがインストールされている必要があります。
- ・ Microsoftの更新プログラムKB2887595をインストールしておく必要があります。KB2887595の詳細については、Microsoftのサポート サイトを参照してください。

["Microsoft サポート記事 2887595: Windows RT 8.1、Windows 8.1、および Windows Server 2012 R2 更新プログラムのロールアップ: 2013 年 11 月"](#)

- ・ リソース グループまたはデータベースをバックアップしておく必要があります。
- ・ Snapshotをミラーまたはバックアップにレプリケートするユーザには、SnapCenter管理者がユーザに対してソースとデスティネーションの両方のボリューム用にStorage Virtual Machine (SVM) を割り当てておく必要があります。

管理者によるユーザへのリソースの割り当てについては、SnapCenterのインストール情報を参照してください。

- ・ データベースをリストアする前に、すべてのバックアップ ジョブとクローン ジョブを停止しておく必要があります。
- ・ データベースのサイズがテラバイト (TB) 単位の場合、リストア処理がタイムアウトになることがあります。

次のコマンドを実行して、SnapCenter Server の RESTTimeout パラメータの値を 20000000 ミリ秒に増やす必要があります: Set-SmConfigSettings -Agent -configSettings @{"RESTTimeout" = "20000000"}。タイムアウト値は、データベースのサイズに応じて変更できます。設定可能な最大値は、86,400,000ミリ秒です。

データベースがオンライン状態のときにリストアする場合は、[Restore]ページでオンライン リストア オプションを有効にする必要があります。

SQL Serverデータベースのバックライトのリストア

SnapCenterを使用して、バックアップされたSQL Serverデータベースをリストアすることができます。データベース リストアは段階的に実施され、すべてのデータとログ ページが指定したSQL Serverバックアップから指定したデータベースにコピーされます。

タスク概要

- ・ バックアップされたSQL Serverデータベースを、バックアップが作成されたホスト上の別のSQL Server インスタンスにリストアすることができます。

本番バージョンを上書きしてしまわないように、SnapCenterではバックアップされたSQL Serverデータベースを別のパスにリストアすることができます。

- SnapCenterでは、WindowsクラスタのデータベースをSQL Serverクラスタ グループをオフラインにすることなくリストアできます。
- リストア処理中に、リソースを所有するノードがダウンするなどのクラスタ障害（クラスタ グループの移動処理）が発生した場合は、SQL Serverインスタンスに再接続してからリストア処理を再開する必要があります。
- ユーザまたはSQL Server Agentジョブがアクセス中のデータベースはリストアできません。
- システム データベースは別のパスにリストアできません。
- SCRIPTS_PATHは、プラグイン ホストのSMCoreServiceHost.exe.ConfigファイルにあるPredefinedWindowsScriptsDirectoryキーを使用して定義します。

必要に応じて、このパスを変更してSMcoreサービスを再起動できます。セキュリティを確保するために、デフォルトのパスを使用することを推奨します。

キーの値は、API を介して Swagger から表示できます: API /4.7/configsettings

GET APIを使用すると、キーの値を表示できます。SET APIはサポートされません。

- [Restore] ウィザードの各ページのフィールドのほとんどはわかりやすいもので、説明を必要としません。以下の手順では、説明が必要なフィールドを取り上げます。
- SnapMirrorアクティブ同期でリストア処理を実行するには、プライマリの場所からバックアップを選択する必要があります。
- SnapLockが有効なポリシーの場合、ONTAP 9.12.1以前のバージョンでは、Snapshotのロック期間を指定すると、リストアの一環として改ざん防止Snapshotから作成されたクローンにSnapLockの有効期限が継承されます。SnapLockの有効期限が過ぎたあと、ストレージ管理者がクローンを手動でクリーンアップする必要があります。

SnapCenter UI

手順

1. 左側のナビゲーションペインで [リソース] をクリックし、リストから適切なプラグインを選択します。
2. [リソース] ページで、[表示] リストから [データベース] または [リソース グループ] を選択します。
3. リストからデータベースまたはリソース グループを選択します。

トポロジ ページが表示されます。

4. [コピーの管理] ビューで、ストレージシステムから [バックアップ] を選択します。

5. 表からバックアップを選択し、 アイコン。

Primary Backup(s)	
Backup Name	End Date
rg1_scapr0191683001_01-05-2017_01.35.06.6403	1/5/2017 1:35:27 AM

6. [Restore Scope] ページで、次のいずれかのオプションを選択します。

オプション	説明
バックアップが作成されたホストにデータベースをリストア	バックアップが作成されたと同じSQL Serverにデータベースをリストアする場合は、このオプションを選択します。
別のホストにデータベースをリストア	バックアップが作成されたホストまたは別のホスト内にある別のSQL Serverにデータベースをリストアする場合は、このオプションを選択します。 ホスト名を選択し、データベース名を入力し（オプション）、インスタンスを選択し、リストアパスを指定します。  代替パスに指定するファイル拡張子は、元のデータベース ファイルのファイル拡張子と同じにする必要があります。

オプション	説明
既存のデータベース ファイルを使用してデータベースをリストア	<p>バックアップが作成されたホストまたは別のホスト内にある代替SQL Serverにデータベースをリストアする場合は、このオプションを選択します。</p> <p>指定した既存のファイル パスにデータベース ファイルが存在している必要があります。ホスト名を選択し、データベース名を入力し（オプション）、インスタンスを選択し、リストア パスを指定します。</p>

7. [Recovery Scope]ページで、次のいずれかのオプションを選択します。

オプション	説明
None	ログなしで完全バックアップのみを復元する必要がある場合は、「なし」を選択します。
All log backups	完全バックアップ後に利用可能なすべてのログバックアップを復元するには、すべてのログ バックアップ 最新バックアップ復元操作を選択します。
By log backups until	ログ バックアップ別を選択すると、ポイントインタイム復元操作が実行され、選択した日付のバックアップ ログまでのバックアップ ログに基づいてデータベースが復元されます。
By specific date until	<p>復元されたデータベースにトランザクション ログが適用されなくなる日時を指定するには、[特定の日付まで] を選択します。</p> <p>ポイントインタイムリストア処理では、指定した日時以降に記録されたトランザクション ログエントリがリストアされません。</p>

オプション	説明
Use custom log directory	<p>すべてのログ バックアップ、ログ バックアップ別、または*特定の日付まで*を選択し、ログがカスタムの場所に配置されている場合は、*カスタム ログ ディレクトリを使用する*を選択し、ログの場所を指定します。</p> <p>カスタム ログ ディレクトリを使用する オプションは、データベースを別のホストに復元する または 既存のデータベース ファイルを使用してデータベースを復元する を選択した場合にのみ使用できます。共有パスを使用することもできますが、そのパスにSQLユーザがアクセスできるようにしてください。</p> <p> カスタム ログ ディレクトリは、可用性グループ データベースではサポートされていません。</p>

8. [Pre Ops]ページで、次の手順を実行します。

a. [Pre Restore Options]ページで、次のいずれかのオプションを選択します。

- 同じ名前のデータベースを復元するには、「復元中に同じ名前のデータベースを上書きする」を選択します。
- データベースを復元し、既存のレプリケーション設定を保持するには、「SQL データベースのレプリケーション設定を保持する」を選択します。
- 復元操作を開始する前にトランザクション ログを作成するには、[復元前にトランザクション ログのバックアップを作成する]を選択します。
- トランザクション ログ バックアップが失敗した場合に復元操作を中止するには、[復元前のトランザクション ログ バックアップが失敗した場合は復元を中止する]を選択します。

b. リストア ジョブの実行前に実行するオプションのスクリプトを指定します。

たとえば、SNMPトラップの更新、アラートの自動化、ログの送信などをスクリプトで実行できます。



プリスクリプトやポストスクリプトのパスに、ドライブや共有を含めることはできません。パスは、SCRIPTS_PATHの相対パスである必要があります。

9. [Post Ops]ページで、次の手順を実行します。

a. [Choose database state after restore completes]セクションで、次のいずれかのオプションを選択します。

- 必要なバックアップをすべて今すぐ復元する場合は、「操作可能、ただし追加のトランザクション ログの復元には使用できません」を選択します。

これはデフォルトの動作で、コミットされていないトランザクションをロールバックしてデータベースを使用可能な状態にします。バックアップを作成するまで追加のトランザクショ

ンログはリストアできません。

- コミットされていないトランザクションをロールバックせずにデータベースを非操作状態のままにするには、「非操作状態ですが、追加のトランザクションログの復元に使用できます」を選択します。

追加のトランザクションログをリストアできます。データベースはリカバリされるまで使用できません。

- データベースを読み取り専用モードのままにするには、「追加のトランザクションログを復元できる読み取り専用モード」を選択します。

コミットされていないトランザクションはロールバックされますが、ロールバックされた操作がスタンバイファイルに保存されるため、リカバリ前の状態に戻すことができます。

[Undo directory]オプションを有効にすると、トランザクションログが追加でリストアされます。トランザクションログのリストア処理が失敗した場合は、変更をロールバックすることができます。詳細については、SQL Serverのドキュメントを参照してください。

- b. リストアジョブの実行後に実行するオプションのスクリプトを指定します。

たとえば、SNMPトラップの更新、アラートの自動化、ログの送信などをスクリプトで実行できます。



プリスクリプトやポストスクリプトのパスに、ドライブや共有を含めることはできません。パスは、SCRIPTS_PATHの相対パスである必要があります。

10. 通知ページの電子メール設定ドロップダウンリストから、電子メールを送信するシナリオを選択します。

また、送信者と受信者のEメールアドレス、およびEメールの件名を指定する必要があります。

11. 概要を確認し、[完了]をクリックします。

12. モニター>ジョブページを使用して復元プロセスを監視します。

PowerShellコマンドレット

手順

- Open-SmConnectionコマンドレットを使用して、指定のユーザでSnapCenter Serverとの接続セッションを開始します。

```
PS C:\> Open-Smconnection
```

- Get-SmBackupコマンドレットおよびGet-SmBackupReportコマンドレットを使用して、リストアする1つまたは複数のバックアップに関する情報を取得します。

この例では、使用可能なすべてのバックアップに関する情報を表示しています。

```

PS C:\> Get-SmBackup

BackupId          BackupName
BackupTime        BackupType
-----
-----          -----
1                Payroll Dataset_vise-f6_08... 8/4/2015   11:02:32
AM               Full Backup
2                Payroll Dataset_vise-f6_08... 8/4/2015   11:23:17
AM

```

この例では、2015年1月29日から2015年2月3日までのバックアップに関する詳細な情報を示しています。

```

PS C:\> Get-SmBackupReport -FromDateTime "1/29/2015" -ToDateTime
"2/3/2015"

SmBackupId      : 113
SmJobId         : 2032
StartTime        : 2/2/2015 6:57:03 AM
EndTime          : 2/2/2015 6:57:11 AM
Duration         : 00:00:07.3060000
CreatedDateTime  : 2/2/2015 6:57:23 AM
Status           : Completed
ProtectionGroupName : Clone
SmProtectionGroupId : 34
PolicyName       : Vault
SmPolicyId       : 18
BackupName        : Clone_SCSPR0019366001_02-02-2015_06.57.08
VerificationStatus : NotVerified

SmBackupId      : 114
SmJobId         : 2183
StartTime        : 2/2/2015 1:02:41 PM
EndTime          : 2/2/2015 1:02:38 PM
Duration         : -00:00:03.2300000
CreatedDateTime  : 2/2/2015 1:02:53 PM
Status           : Completed
ProtectionGroupName : Clone
SmProtectionGroupId : 34
PolicyName       : Vault
SmPolicyId       : 18
BackupName        : Clone_SCSPR0019366001_02-02-2015_13.02.45
VerificationStatus : NotVerified

```

3. `Restore-SmBackup`コマンドレットを使用して、バックアップからデータをリストアします。

```
Restore-SmBackup -PluginCode 'DummyPlugin' -AppObjectId  
'scc54.sccore.test.com\DummyPlugin\NTP\DB1' -BackupId 269  
-Confirm:$false  
output:  
Name : Restore  
'scc54.sccore.test.com\DummyPlugin\NTP\DB1'  
Id : 2368  
StartTime : 10/4/2016 11:22:02 PM  
EndTime :  
IsCancellable : False  
IsRestartable : False  
IsCompleted : False  
IsVisible : True  
IsScheduled : False  
PercentageCompleted : 0  
Description :  
Status : Queued  
Owner :  
Error :  
Priority : None  
Tasks : {}  
ParentJobID : 0  
EventId : 0  
JobTypeID :  
ApisJobKey :  
ObjectId : 0  
PluginCode : NONE  
PluginName :  
:
```

コマンドレットで使用できるパラメータとその説明に関する情報は、`Get-Help command_name` を実行すると取得できます。あるいは、["SnapCenterソフトウェア コマンドレット リファレンス ガイド"](#)。

セカンダリ ストレージからSQL Serverデータベースのリストア

セカンダリ ストレージシステム上の物理LUN (RDM、iSCSI、またはFCP) から、バックアップされたSQL Serverデータベースをリストアすることができます。リストアは段階的に実施され、すべてのデータとログ ページがセカンダリ ストレージシステム上の指定したSQL Serverバックアップから指定したデータベースにコピーされます。

開始する前に

- ・プライマリストレージシステムからセカンダリストレージシステムにSnapshotをレプリケートしておく必要があります。
- ・SnapCenter Serverとプラグインホストがセカンダリストレージシステムに接続できることを確認しておく必要があります。
- ・[Restore] ウィザードの各ページのほとんどのフィールドについては、基本的なリストアプロセスで説明しています。以下の手順では、説明が必要な一部のフィールドを取り上げます。

タスク概要

SnapLockが有効なポリシーの場合、ONTAP 9.12.1以前のバージョンでは、Snapshotのロック期間を指定すると、リストアの一環として改ざん防止Snapshotから作成されたクローンにSnapLockの有効期限が継承されます。SnapLockの有効期限が過ぎたあと、ストレージ管理者がクローンを手動でクリーンアップする必要があります。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで [リソース] をクリックし、リストから [SnapCenter Plug-in for SQL Server] を選択します。
2. [リソース] ページで、[表示] ドロップダウンリストから [データベース] または [リソース グループ] を選択します。
3. データベースまたはリソース グループを選択します。

データベースまたはリソース グループのトポロジ ページが表示されます。

4. [コピーの管理] セクションで、セカンダリストレージシステム(ミラーまたはボルト)から [バックアップ] を選択します。
5. リストからバックアップを選択し、クリックします  。
6. [Location] ページで、選択したリソースをリストアするデスティネーションボリュームを選択します。
7. 復元ウィザードを完了し、概要を確認して、[完了] をクリックします。

他のデータベースが共有している別のパスにデータベースをリストアした場合は、フルバックアップとバックアップ検証を実行して、リストアしたデータベースが物理レベルで破損していないことを確認してください。

PowerShellコマンドレットを使用したリソースのリストア

リソースのバックアップをリストアするときは、SnapCenter Serverとの接続セッションを開始し、バックアップをリストしてバックアップの情報を取得し、バックアップをリストアします。

PowerShellコマンドレットを実行できるように環境を準備しておく必要があります。

手順

1. Open-SmConnectionコマンドレットを使用して、指定のユーザでSnapCenter Serverとの接続セッションを開始します。

```
PS C:\> Open-Smconnection
```

2. Get-SmBackupコマンドレットおよびGet-SmBackupReportコマンドレットを使用して、リストアする1つまたは複数のバックアップに関する情報を取得します。

この例では、使用可能なすべてのバックアップに関する情報を表示しています。

```
PS C:\> Get-SmBackup
```

BackupId	BackupName	BackupTime
BackupType		
-----	-----	-----
-----	-----	-----
1	Payroll Dataset_vise-f6_08...	8/4/2015 11:02:32 AM
Full Backup		
2	Payroll Dataset_vise-f6_08...	8/4/2015 11:23:17 AM

この例では、2015年1月29日から2015年2月3日までのバックアップに関する詳細な情報を示しています。

```

PS C:\> Get-SmBackupReport -FromDate "1/29/2015" -ToDate "2/3/2015"

SmBackupId      : 113
SmJobId        : 2032
StartTime       : 2/2/2015 6:57:03 AM
EndTime         : 2/2/2015 6:57:11 AM
Duration        : 00:00:07.3060000
CreatedDateTime : 2/2/2015 6:57:23 AM
Status          : Completed
ProtectionGroupName : Clone
SmProtectionGroupId : 34
PolicyName      : Vault
SmPolicyId      : 18
BackupName       : Clone_SCSPR0019366001_02-02-2015_06.57.08
VerificationStatus : NotVerified

SmBackupId      : 114
SmJobId        : 2183
StartTime       : 2/2/2015 1:02:41 PM
EndTime         : 2/2/2015 1:02:38 PM
Duration        : -00:00:03.2300000
CreatedDateTime : 2/2/2015 1:02:53 PM
Status          : Completed
ProtectionGroupName : Clone
SmProtectionGroupId : 34
PolicyName      : Vault
SmPolicyId      : 18
BackupName       : Clone_SCSPR0019366001_02-02-2015_13.02.45
VerificationStatus : NotVerified

```

3. Restore-SmBackupコマンドレットを使用して、バックアップからデータをリストアします。

```

Restore-SmBackup -PluginCode 'DummyPlugin' -AppObjectId
'scc54.sccore.test.com\DummyPlugin\NTP\DB1' -BackupId 269
-Confirm:$false
output:
Name : Restore
'scc54.sccore.test.com\DummyPlugin\NTP\DB1'
Id : 2368
StartTime : 10/4/2016 11:22:02 PM
EndTime :
IsCancellable : False
IsRestartable : False
IsCompleted : False
IsVisible : True
IsScheduled : False
PercentageCompleted : 0
Description :
Status : Queued
Owner :
Error :
Priority : None
Tasks : { }
ParentJobID : 0
EventId : 0
JobTypeId :
ApisJobKey :
ObjectId : 0
PluginCode : NONE
PluginName :

```

コマンドレットで使用できるパラメータとその説明に関する情報は、*Get-Help command_name* を実行すると取得できます。あるいは、["SnapCenterソフトウェア コマンドレットリファレンス ガイド"](#)。

可用性グループ データベースの再シード

再シードは、可用性グループ (AG) データベースをリストアするためのオプションです。セカンダリ データベースがAG内のプライマリ データベースと同期していない場合は、セカンダリ データベースを再シードできます。

開始する前に

- リストアするセカンダリAGデータベースのバックアップを作成しておく必要があります。
- SnapCenter Serverとプラグイン ホストには、同じバージョンのSnapCenterがインストールされている必要があります。

タスク概要

- ・プライマリ データベースには再シード処理を実行できません。
- ・可用性グループからレプリカ データベースが削除されると、再シード処理を実行できません。レプリカが削除されると、再シード処理は失敗します。
- ・SQL可用性グループ データベースで再シード処理を実行する際には、その可用性グループ データベースのレプリカ データベースでログ バックアップがトリガーされないようにしてください。再シード処理中にログ バックアップがトリガーされると、再シード処理は失敗し、「The mirror database, "database_name" has insufficient transaction log data to preserve the log backup chain of the principal database」というエラー メッセージが表示されます。

手順

1. 左側のナビゲーションペインで [リソース] をクリックし、リストから [SnapCenter Plug-in for SQL Server] を選択します。
2. [リソース] ページで、[表示] リストから [データベース] を選択します。
3. リストからセカンダリAGデータベースを選択します。
4. *再シード*をクリックします。
5. モニター > ジョブをクリックして、操作の進行状況を監視します。

SQLリソースのリストア処理の監視

[Job]ページを使用して、SnapCenterの各リストア処理の進捗状況を監視できます。処理の進捗状況をチェックして、処理が完了するタイミングや問題が発生していないかどうかを確認できます。

タスク概要

リストア後の状態によって、リストア処理後のリソースの状況と、追加で実行できるリストア操作がわかります。

[Jobs]ページでは、次のアイコンで処理の状態が示されます。

- ・ 進行中
- ・ 正常に完了しました
- ・ 失敗した
- ・ 警告付きで完了したか、警告のため開始できませんでした
- ・ キューに登録
- ・ キャンセル

手順

1. 左側のナビゲーションペインで、[モニター] をクリックします。
2. *モニター*ページで、*ジョブ*をクリックします。
3. ジョブ ページで、次の手順を実行します。
 - a. をクリックし でリストをフィルタリングし、リストア処理のみを表示します。

- b. 開始日と終了日を指定します。
 - c. *タイプ*ドロップダウンリストから*復元*を選択します。
 - d. *ステータス*ドロップダウンリストから、復元ステータスを選択します。
 - e. 正常に完了した操作を表示するには、[適用] をクリックします。
4. 復元ジョブを選択し、[詳細] をクリックしてジョブの詳細を表示します。
5. *ジョブの詳細*ページで、*ログの表示*をクリックします。

ログを表示 ボタンをクリックすると、選択した操作の詳細なログが表示されます。

SQLリソースのリストア処理のキャンセル

キューに登録されているリストアジョブはキャンセルできます。

リストア処理をキャンセルするには、SnapCenter管理者かジョブ所有者としてログインする必要があります。

タスク概要

- ・ キューに入れられた復元操作は、[モニター] ページまたは [アクティビティ] ペインからキャンセルできます。
- ・ 実行中のリストア処理はキャンセルできません。
- ・ キューに登録されているリストア処理のキャンセルには、SnapCenter GUI、PowerShellコマンドレット、またはCLIコマンドを使用できます。
- ・ キャンセルできない復元操作の場合、「ジョブのキャンセル」ボタンは無効になります。
- ・ ロールの作成時に [ユーザー\グループ] ページで このロールのすべてのメンバーが他のメンバーのオブジェクトを表示および操作できる を選択した場合、そのロールの使用中に他のメンバーのキューに入れられた復元操作をキャンセルできます。

手順

次のいずれかを実行します。

方法	アクション
[Monitor]ページ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 左側のナビゲーションペインで、モニター > ジョブをクリックします。 2. ジョブを選択し、「ジョブのキャンセル」をクリックします。
[Activity]ペイン	<ol style="list-style-type: none"> 1. 復元操作を開始したら、▲アクティビティペインで、最新の 5 つの操作を表示します。 2. 処理を選択します。 3. ジョブの詳細ページで、「ジョブのキャンセル」をクリックします。

著作権に関する情報

Copyright © 2025 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を隨時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5225.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用権を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用権については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。